

団体名 日本防災植物協会

代表者: 石川 慎吾

事業名

ミニ防災植物教室「植物×○○」の開催 ～自然環境に興味を持ってもらうために～

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

防災植物を通じて自然環境や多様性に興味を持てるようさまざまな交流の場を作る。

事業概要

事業区分：一般事業
 補助金：426 千円（総事業費 471 千円）
 実施期間：令和 7 年 7 月 3 日～ 令和 8 年 2 月 20 日
 施行場所：四万十市内



事業内容

「防災植物×カクテル」「防災植物×写真」「ぼうさい植物×こども」のミニ教室の開催と、ぼうさい植物紙芝居「どくだみ親分の反乱」の作成。



結果と分析

普段自然に興味のない人や、現在外で遊ぶことの少なくなった子どもたちに喜んでもらうことができた。カクテル講座、写真講座では男性の参加も多く、また子ども講座は未就学児から低学年の参加（保護者なし）が多かった。いつもの防災植物教室には来ないような参加者であり、あまり自然に興味のない人や、現在外で遊ぶことの少なくなった子どもたちに喜んでもらうことができた。高知県の豊かな自然を感じ、興味を持つきっかけになったと思う。

今後の取組に向けて

今後も異分野とのコラボを通じて、新たな層の獲得に努めていきたい。紙芝居は屋内外や人数を問わずに行うことができ、大人こども関係なく楽しむことができることがわかったので、今後はいろんなところに携帯して広く活用していきたいと思う。小学校の読み聞かせの時間でも活用していきたい。

団体名 高知に自然史博物館をつくる会

代表者：谷地森秀二

事業名

「高知に自然史博物館をつくる」ための普及啓発活動

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

高知県に自然史博物館をつくることについて、県民へ向けてその重要性を呼びかけるとともに、高知県内に県立自然史博物館をつくる意義について有識者と県民とで意見の交換と情報の共有化を図る。

事業概要

事業区分：一般事業

補助金：500 千円（総事業費 503 千円）

実施期間：令和7年5月31日～令和8年2月10日

施行場所：のいち動物公園、カルステラス

室戸世界ジオパークセンター、高知みらい科学館
道の駅「ビオスおおがた」、大豊学園、四万十高校
竜串ビジターセンターうみのわ、オーテピア

事業内容

高知県に自然史博物館をつくることについて、巡回パネル展を開催し、県民へ向けてその重要性を呼びかけた。巡回パネル展は、のいち動物公園、カルステラス、室戸世界ジオパークセンター、高知みらい科学館、道の駅「ビオスおおがた」、竜串ビジターセンターうみのわ、大豊学園および四万十高校の8会場で開催した。

また、高知県内に自然史博物館をつくる意義について、オーテピアのホールを会場にシンポジウム形式で有識者と県民とで意見の交換と情報の共有化を図った。



結果と分析

巡回パネル展では、会場によって見学者数にばらつき（100名～700名）はあったものの、会場を提供してくださったところからは「多くの人々が熱心に見ていた。」という報告をいただいた。開催することによって、高知県内の広い範囲ならびに多くの県民に「自然史博物館をつくろう!」と呼びかけることができた。

シンポジウムには高知県内外から66名の参集者があり、基調講演では静岡県で行われた廃校校舎を利用した自然史博物館設立の事例を参集者に紹介でき、その後の総合討論では、専門的な研究と全国規模で活動している国立科学博物館、高知県と同じ南四国の自然史科学を対象に活動している徳島県立博物館、高知県内で植物に関する分野で多大な功績をあげている牧野植物園、市立でありながら高知県全域にサービスを提供している高知みらい科学館のそれぞれの学芸員から「高知県に県立自然史博物館をつくる意義」についてコメントをいただき、参加者と意見交換をすることができた。

今後の取組に向けて

高知県産の自然史科学標本の散逸と県外流出を食い止めるために、今回の基調講演で得られた情報を参考に、旧高知南高校の最上階の教室を用いて標本一時保管場所を構築する。

また、高知県環境基本計画の推進のために、高知県、既存の教育施設、民間組織と連携して「自然史博物館の設立」の実現を目指す。

特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター

住所:須崎市下分乙 470-1 新庄公民館内 連絡先:0889-40-0840 代表者:理事長 濱田哲暁

事業名

高知県に現存する生物標本の 一時保管場所の整備活動

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

高知県内に散在し、天災によって失われてしまう可能性が高い生物標本を収集し、廃校校舎を利用してその“緊急避難的”な一時保管場所を整備する。この保管場所の整備に向けた準備を行うことを目的とする。

事業概要

事業区分：一般事業

補助金：61千円（総事業費 61 千円）

実施期間：令和7年6月20日～令和8年2月20日

施行場所：高知県立南高校跡地

事業内容

標本を保管できる環境構築のための準備:標本収納及び整理のために必要な資材の購入、保管場所を整備する準備を行った。



結果と分析

補助金を活用して、特に温湿度の上昇予防と紫外線量減少のために必要な資材等を購入した。当初の予定では標本を保管できる環境構築を11月頃迄に実施し、12月からは標本の受入作業等も実施する予定であったが、標本の一時保管場所として決定した施設に雨漏りが見つかり、標本を搬入できる状況ではなくなった。そのため、事業内容を標本を保管できる環境構築のための準備へと変更し、事業を実施した。



今後の取組に向けて

本事業により、標本の一時保管に向けた準備を進めることができた。今後は、施設の修繕が終わり次第、保管場所の整備を行うとともに、不足している資材の整備等を継続し、段階的に体制を整えていく。現在は、高知県の貴重な標本を適切に一時保管できる体制構築に向けた準備段階にあるが、引き続き、環境整備と資材確保を進め、安全かつ安定した一時保管体制の確立を目指す。

団体名 三原村星草の会

代表者: 田城 光子

事業名

三原村絶滅危惧種自生地の保護活動

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

地権者の高齢化と大雨による水路崩壊の為、耕作放棄地となった水田において、18種の絶滅危惧植物が生育しているが、自然遷移が進んでおり、環境が悪化している。

従来のような手入れと、地元小学生と観察会を実施し、希少植物の保全や里山の環境保全について、地域住民への周知、啓発を行う。

事業概要

事業区分：一般事業

補助金：459千円（総事業費 459千円）

実施期間：令和7年6月10日～令和8年2月20日

施行場所：三原村



事業内容

- ・期間内 10 回の作業をのべ 63 人で事業を実施
- ・作業内容(草刈り、水路の修復、野焼き、田んぼの耕うん等)
- ・地元小学生との観察会



結果と分析

予定をしていた草刈り、野焼き、周囲の立木伐採などは、ほぼ実施できた。水路の修復に関しては、まだ不十分であり今後も溝上げ等を引き続き行っていかなければいけない。三原小学校5年生との観察会では、地権者にも参加していただき、伝統的な米づくりについてのお話が聞けた。また、三原小中学校合同学習発表会で発表され、参加した保護者にも観察会の様子を周知できた。

今後の取組に向けて

草刈り、野焼き、小学生との観察会を継続する。石川先生のご指導にあった、外来種の侵入を防ぐため、水田内に水を入れ、乾燥化を防ぐための水路修復を進める。

これまでの草刈りなどの活動であらたに希少植物の生育が確認されている。区域内の植生調査を行い、植物リストの更新を行う。

団体名 遠山を守る会

住所: 高知県高岡郡四万十町琴平町 1-1 (一社)四万十町観光協会内
連絡先: 0880-29-6004 代表者: 武田茂男

事業名 遠山自然公園の池の栈橋の修繕と環境学習観察会の開催

補助対象事業区分 : 一般事業

事業目的

多数の絶滅危惧種を含む豊かな植物相を誇る「遠山自然公園」では長年、遠山を守る会が草刈りや野焼きなどの保全活動を行い、貴重な植物の生育環境を維持してきた。定期的に観察会を開催し、自然保護の重要性を広め、地域住民や子供たちの郷土愛をも育んできた。本年度は生物多様性講座を開催し、多数の会員が参加し、草刈り等の継続の大切さを学ぶことで、さらに活動の広がりが認められている。また、町役場企画課四万十川振興室やトンボ公園の協力を得て、環境学習観察会も実施することになった。そこで本年度は池部分の栈橋の修繕を行い、水生昆虫や水草等の観察会を安全に実施し、人と自然がふれあう遠山自然公園の利用促進を図ることを目的とする。

事業概要

事業区分 : 自然環境を守る取組
補助金 : 500 千円 (総事業費 562 千円)
実施期間 : 令和 7 年 6 月 1 日 ~ 令和 7 年 11 月 30 日
施行場所 : 遠山自然公園

事業内容

①遠山自然公園の池の栈橋の修繕

重機を入れず防腐剤を使わず環境を大きく損なうことのないように、腐りにくい松を柱に、桧を栈橋に、ボルトはステンレス製を使用して池の栈橋を改修した。

②環境学習観察会の開催

東又小学校の6年児童には、希少植物の観察と環境学習を実施した。希少植物や水生昆虫の観察と外来植物の草ひき作業等を通して、生物多様性への理解を深めた。仁井田小学校5年児童は、トンボ公園の杉村氏を講師にトンボを採集し、生息する



トンボの種類から環境の豊かさについて学習できた。

結果と分析

栈橋の改修工事により、環境への影響を最小限に抑えつつ、池に身を乗り出して水生昆虫や植物を安全に観察できる栈橋へと生まれ変わった。遠山自然公園にはいくつもの池が点在しているが、身を乗り出して観察できる場所は多くない。そのため、今回の改修は貴重な観察機会を提供するものとなった。その後実施した観察会では、大人の参加者からも「ゲンゴロウ（※注 コガタノゲンゴロウのこと）がどっさりいる」「久しぶりにゲンゴロウを見られた」といった驚きや喜びの声が上がった。植物だけでなく、動物にも自然と観察の目が向くようになったことを実感できる場となった。地元児童を対象とした希少植物観察会・環境学習では、高知昆虫研究会の協力により事前に採集した甲虫類を、名前を付けたカップに入れて観察してもらった。これにより、植物だけでなく昆虫をはじめとする多様な生き物について考える機会を提供することができた。また、新栈橋の池を中心に、ジンデ池生物研究所や高知昆虫研究会の協力を得て、8月と11月に遠山自然公園に生息するトンボや水生昆虫などの生き物調査を実施した。これらの活動を通じて、遠山自然公園が植物だけでなく動物の多様性にも富んでいることを改めて実感することができた。

今後の取組に向けて

多種多様な昆虫の生息が確認できたことで、来年度からは希少植物観察会に加えて、昆虫に焦点を当てた観察会も企画できるのではないかと考えている。昆虫という新たな切り口を加えることで、遠山自然公園が持つ希少価値を、より多くの人に実感してもらえるはずだ。

この10数年間、遠山自然公園では希少植物の画像や一覧表など、植物に関する資料を丁寧に蓄積してきた。しかし、昆虫をはじめとする動物に関しては、まだほとんど手つかずの状態である。そこで、来年度から始まるレッドデータブック〈動物編〉の改編作業に、遠山地域の調査も組み込んでもらえるよう働きかけたい。そうすることで、動植物双方の視点から、生物多様性の変化をより深く把握し、その価値を広く伝えていくことができるだろう。

団体名 (一社) 土佐清水ジオパーク推進協議会

住所: 高知県土佐清水市三崎 4032-2

連絡先: 0880-87-9590

代表者: 橋本 敏男

事業名

マルバテイショウソウ保全地のモニタリングおよび普及活動

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

事業目的

事業概要

事業区分: 一般事業

補助金: 46 千円 (総事業費 46 千円)

実施期間: 令和 7 年 6 月 27 日~令和 8 年 2 月 20 日

施行場所: 高知県土佐清水市

事業内容

希少植物マルバテイショウソウ保全地のモニタリング(令和 8 年 2 月 11 日)および、市民への理解、価値の共有のための勉強会、観察会(令和 7 年 11 月 8 日、12 月 20 日)を実施した。

○マルバテイショウソウ勉強会・観察会(令和 7 年 11 月 8 日)(高知県土佐清水市下ノ加江)

参加者: 12 人 スタッフ: 5 人 講師: 瀬尾明弘 氏(高知県立牧野植物園)

○マルバテイショウソウ花の観察会(令和 7 年 12 月 20 日)(高知県土佐清水市下ノ加江)

参加者: 9 人 スタッフ: 3 人 講師: 瀬尾明弘 氏(高知県立牧野植物園)

○モニタリング(令和 8 年 2 月 11 日)

実施者: 前田綾子 氏(高知県立牧野植物園)別紙報告書



(12.20 マルバテイショウソウ花の観察会)

結果と分析

地域住民向けの勉強会・観察会および、モニタリングを実施した。観察会、勉強会の周知は、市広報、チラシで行ったが、市外からの参加もあり、また、開催した勉強会・観察会の後、および2月11日に、モニタリング等を実施し、成長や周辺環境の確認を行った。令和7年末は雨量が少なかったが自生地、植え戻し地でのマルバティショウソウへの影響は見られなかった。ただ、植え戻し地での虫害や、食害が見られたため、ネットをかけるなどの対策が必要とのことだった。

今後の取組に向けて

マルバティショウソウの保護活動について、地元の活動者の高齢化、負担増が大きな課題となっている。今後とも、定期的に広く周知活動を行い、希少植物の秘匿性とのバランスを考えながら、協力者を増やす活動を続けていきたい。

団体名 ジンデ池生物研究所

代表者：植村優人

事業名

ジンデ池の魅力更に！新発見！！&調査メンバー大募集！！

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

須崎市安和にあるため池通称「ジンデ池」は生物多様性豊かな里地里山環境である。この環境を保全し地域とともに未来へ繋いでいくため、多くの人に生き物の楽しさを知ってもらい活動に参加してもらう。生物調査活動を継続するためにメンバーを募集する。

事業概要

事業区分：一般事業

補助金：500 千円（総事業費 500 千円）

実施期間：令和 7 年 6 月 1 日～令和 8 年 2 月 20 日

施行場所：須崎市安和



事業内容

●観察会イベント

「第9回ジンデ池生物多様性セミナー 夜の里山でライトトラップ昆虫採集!」を実施した。通常は昼間に生物調査を行っているため新たに夜間の生物調査を行うとともに、イベントの参加者にも日中とは一風変わった昆虫採集を体験してもらうことで生物多様性と里山環境の魅力を感じてもらった。



●パンフレット作成・ホームページ更新

これまでは白黒印刷したパンフレットを自前で作成し配布していたが、活動や魅力を十分に伝えられるものではなかった。本事業ではカラーパンフレットを作成し、活動の紹介、ジンデ池やそこでみられる生物の魅力を発信するとともに、活動（主に生物調査）に参加するメンバーの募集も呼びかけた。またホームページの更新では、生物調査に誰でも気軽に参加してもらうために調査票をダウンロードできるようにしたほか、メンバー募集の文言を付け加えるなどした。



結果と分析

第9回ジンデ池生物多様性セミナー当日は少雨だったが31名の参加があった。講師によるライトトラップ調査や生物調査に関する講座と合わせ、ライトトラップの観察、図鑑での同定作業などを体験してもらい、多くの参加者からまた開催してほしいという感想が聞かれた。また高知県初記録となる昆虫も採集することができ、参加者にライトトラップ調査および里山環境への関心を持ってもらうことができた。

パンフレットは主として活動の紹介、メンバー募集、生物調査への参加を呼び掛ける内容のものを作成した。博物館、図書館などに置いてもらっているほか、生物や環境に興味があるという人に渡すなどして、生物研究所のことを広く知ってもらった。ホームページにはメンバー募集のページを追加した。パンフレットを手渡した人たちからは参加してみたいとの声が聞かれたため、今後の活動に参加してもらうことが期待できる。

今後の取組に向けて

今回行ったライトトラップ調査では昆虫を中心として多くの生物を新たに確認することができた。今後の調査でも継続して行うことでジンデ池とその周辺環境の更なる生物多様性の解明を行っていききたい。また生物調査への参加者や生物研究所のメンバーを増やすことで、引き続き生物調査、環境保全および環境教育の安定的な継続を図っていききたい。「里山環境を地域とともに環境を未来に繋ぐ」という目標のもと、今後も活動を継続していく。

団体名 特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館

住所: 高知県幡多郡黒潮町浮鞭 3573-5 連絡先: 0880-43-4915 代表者: 理事長 村上健太郎

事業名

第 10 回ホネホネサミット 2025@高知県黒潮町

補助対象事業区分 : 自然環境を守る取組

事業目的

- ・生物標本の新しい見方や考え方を創出する。幅広い世代が標本を通じて日本各地の自然環境や生物を知ることができ、好奇心や探求心を深めることができる。参加者に生物や標本の本質的な魅力や意義を学ぶ機会を創出する。
- ・これまでホエールウォッチングなど、自然環境や地域資源を活用した取り組みを実施しており、本サミットでの知識の共有や人のつながりを通じて、より深い学びを提供できる自然・体験型観光の磨きあげにつなげる。
- ・地元中学校と環境学習を通じて本サミットへ参加、学習の場とする。

事業概要

事業区分 : 一般事業

補助金 : 500 千円 (総事業費 993 千円)

実施期間 : 令和7年 5 月 31 日 ~ 令和8年 1 月 31 日

施行場所 : 土佐西南大規模公園ふるさと総合センター



事業内容

第 10 回ホネホネサミット 2025@高知県黒潮町の開催

ホネホネサミットは日本各地の博物館や大学で、動物の死体を標本として保存する活動をしている人、保存された標本を研究あるいは生き物の魅力を伝えるための展示や教育活動に活かす人、またホネの魅力にとりつかれ、個人で骨格標本作製している人、こうした人々が一同に集まって、それぞれの技術を伝えあい、様々な情報交換することを目的としたイベントです。

今回のホネホネサミットでは、来場いただく方に新たな「標本」の見方や考え方を創出する場として、日本各地の自然環境や地域、生物を知ることのできる標本を活用したコンテンツが全国の子どもから大人までの好奇心や探求心を深め、本質的な生物や標本の魅力・意義を学ぶ機会を創出することも目的としています。観光誘客促進による地域経済の活性化を図ることも目的とし、人と自然のつきあい方を考える砂浜美術館と、カツオクジラ館長に会いにくつツアーを行っている大方ホエールウォッチングとして、黒潮町の交流人口と地域資源を創出することも視野に入れ開催いたしました。

招待講演: 田島木綿子 (国立科学博物館)

谷地森秀二 (横倉山自然の森博物館)

出展団体: 33 団体



結果と分析

「ホネ」を共通点として集まった北海道から九州までの33団体約140名が、陸と海のさまざまな生物の標本展示を行い、ホネから見る生物の魅力や、ホネの魅力、ホネや毛皮などの標本を100年、200年と未来へ残す意図を来場者(2日間約800名)へ伝えた。

黒潮町内の地元の中学3年生も出展を行い、自分たちが海岸で拾った漂着骨の展示や、生物の事、黒潮町の魅力の発信を行い、海からの恵だけでなく災いの防災についての発表も行った。黒潮町ならではの、「人と自然のつきあい方」の発信をすることができ、来場者や出展者も聞いてくれた。中学生たちもホネなどの標本がたくさんある会場で、あらゆる展示に興味を持ち、自分たちの知らない世界を学ぶきっかけとなった。出展者間では、標本にする技術の情報交換や北と南の地域での生物の違いなど細かく情報を交換できる場となった。

オプションツアーとして開催したホエールウォッチングでは、天候にも恵まれ3日間出航でき、全国からの来場者および出展者へ高知の自然環境や土佐湾の鯨類についての解説を行い、魅力や調査等の情報発信を行った。

来場者の地元住民も、「こんなにホネに囲まれたのは初めて。とても勉強になった」「ぼくも獣医を目指し〇〇大学を目指す」といった声も聞くことができ、未来のホネホネ団たちの成長が楽しみとなった。

今後の取組に向けて

今まで高知県西部で行ったことのないとてもマニアックなサミットの開催を行い、実はホネに魅力を感じていた地元の子どもたちが、会場に訪れ、図鑑では見たり触れたりすることのできない実物標本をじっくりと観察していた。一緒に来場した保護者の方も予想以上に子どもたちが興味を持ってとても驚いたという言葉もうかがえた。また、開催にあたり告知等でホネホネサミットを知ったご高齢の方から、家にある標本を引き取ってほしいといったお問い合わせも複数寄せられた。今後は、講師である谷地森様が代表である「高知に自然史博物館をつくる会」とも連携を取りながら、失われつつある高知の標本の把握を行っていきけるよう検討を行う。また、観光客だけでなく、地元の子どもたちや大人向けにクジラやイルカ、標本を中心に、高知の自然環境や生態系について学べるプログラムの考案を行っていく。

また、今回ホネホネサミットを開催中に、次回のホネホネサミット開催地は岩手県に決定した。2027年の開催に向けて時期実行委員会へ引き継ぎを行っていく。

団体名 鏡川水生生物研究会

代表者：小野 暁

事業名

県民憩いの場鏡川での学生を中心とした 生物多様性についての調査と普及活動

補助対象事業区分：自然環境を守る取組

事業目的

鏡川の生物多様性を調査し、その普及啓発活動を推進していく。

事業概要

事業区分：ステップアップ事業
補助金：161千円（総事業費 161千円）
実施期間：令和7年 6 月 1日～ 令和8年 2 月 20 日
施行場所：鏡川（高知市）



事業内容

本事業では、鏡川流域での生物調査及び生物多様性の普及のためのイベントを行った。月1回程度の生物調査と鏡川での生物観察会、鏡川水生生物研究会での活動発表である。イベントは、企画、共催、参加も含めて期間中に計6回行われた。詳細な名称と実施日は以下の通りである。

- ・高知みらい科学館共催「鏡川の生きものマッピング」(8月5日)
- ・鏡川環境保全の会主催「川の生き物探検隊」(8月23日)
- ・NPO 法人環境の杜こうち主催「こうち環境博」(8月30日)
- ・高知みらい科学館共催「鏡川の自然観察会」(10月5日)
- ・高知県環境活動支援センターえこらぼ主催「ふるさとのおいのちをつなぐ生物多様性こうちプラン大賞」
(1月17日)
- ・高知市市民活動サポートセンター主催「鏡川の環境を守りたい!水生生物研究会の活動」
(1月22日)



結果と分析

生物調査は、鏡川河口域からトリム堰周辺までの感潮域において行われた。魚類25種、甲殻類13種、貝類8種、爬虫類1種、哺乳類2種が確認された。そのうち、魚類6種、甲殻類4種が高知県指定の絶滅危惧種とされており、鏡川の高い生物多様性を証明しているといえる。さらに、本事業中に県指定希少野生動物種のイドミズハゼが複数観察された（観察後、すぐに放流）。本種は環境の変化によって容易に姿を消すことが知られており、鏡川の環境を象徴するとともに、その環境を今後も保全していく必要がある。

イベントでは、多くの人と交流し、生物多様性の重要性について訴えていくことができた。特に、「ふるさとのいのちをつなぐ生物多様性こうちプラン大賞」では、大賞を受賞することができた。さらに、高知市新エネルギー環境政策課が発行する「鏡川流域パートナーシップだより」では、No219,230,236において本会の活動が紹介された。こういったことから、鏡川は、高い生物多様性を誇ることが再度認識され、本事業において、それをさらに多くの人々に普及することができた。

今後の取組に向けて

本事業において、鏡川の生物多様性の高さと人々の関心が高いことが再度明らかになった。しかしながら、鏡川水生生物研究会は、未だ河川河口域周辺でしか調査ができておらず、また、安定した調査員の確保も大きな課題であった。そのため、来年度は、研究会内での安定した調査体制の構築や会員の勧誘、調査範囲の拡大といったことが求められる。これらの実行のため、本事業内容を参考に会の体制を再度考えていきたい。

団体名 南国市立長岡小学校 6 年生

住所: 高知県南国市下末松 97

連絡先: 電話 088-864-2309

代表者: 校長 彼末 健一

事業名

地産地消と食品ロス解消で長岡の環境を守り隊

補助対象事業区分 : 地球温暖化への対策

事業目的

6年生児童は、「地産地消」「食品ロス解消」によって二酸化炭素排出量の削減と校区の農業を持続的なものとしていくことへの貢献を目指す。学びや活動の成果は、冊子にまとめ、家庭や地域に広く配布(400部)し、啓発を行う。また、冊子を活用した「朝ごはん食堂」を下級生と実施することを通して、「地産地消」「食品ロス解消」メニューの家庭への広がりにつなげる。

事業概要

事業区分 : ステップアップ事業(ジュニア枠)

補助金 : 100千円(総事業費100千円)

実施期間 : 令和7年6月2日~ 令和8年2月20日

施行場所 : 長岡小学校区

事業内容

温暖化の影響と考えられる酷暑のため、学校生活においても熱中症対策が徹底されていることから、温暖化対策として自分たちができることを考え、実践していくことが探究課題となった。情報収集として、地域で行われている環境保全型農業と地産地消の取組についてゲストティーチャーを招いて学んだ。児童は、地域での先進的な取組を広く知らせるため、また、応援するために「地産地消朝ごはんレシピ集~高知の環境保全型農業を応援しよう~」(以下、「レシピ集」)の作成と地産地消の実践に取り組んだ。



結果と分析

ゲストティーチャーとの交流により、地域で行われている環境保全型農業(ハウス園芸の暖房への木質ペレットの活用・家畜のフンの堆肥化・天敵農法による農薬の不使用等)が、気候変動の影響を小さくする取組であることを理解することができた。知識が豊富になったことで、児童は、地域の取組をいろんな人に知ってもらいたいという思いを高め、「レシピ集」には環境保全型農業を紹介するページを付け加えることになった。また、長年にわたって地産地消の取組を実践されている方との交流において児童は、地域の豊富な食材に対して親しみや愛着を持ち、地産地消への意欲を高めることができた。児童は、夏季休業中にそれぞれ、地産地消や食材を無駄なく使って食品ロスを減らすことを意識した朝食メニューを考案し、試作・試食した。「レシピ集」の完成に向けて、2・3学期は、授業の中で「レシピ集」に掲載するレシピの選定や試作・試食等を意欲的に行った。



今後の取組に向けて

「レシピ集」の作成に時間を要してしまい、家庭や地域への啓発活動が十分にはできなかった。本年度の残されたわずかな時間にはなるが、「レシピ集」を家庭・地域に配布したり、6年生と下級生とが「レシピ集」掲載のメニューを一緒に作って会食する「朝ごはん食堂」を2月25・26日に実施したりして、啓発活動に取り組む。次年度以降も、「レシピ集」は、総合的な学習の時間の「環境学習」や家庭科の授業等で活用を続け、本取組がさらに発展していくようにしていく。

団体名 香美市こどもエコクラブ

代表者：時久 恵子

事業名

Let's Cool Choice!

補助対象事業区分：地球温暖化への対策

事業目的

近年の地球温暖化への危機感から、子どもたちは従来の Cool Choice の啓発だけでは不十分だと認識した。本年度はゴミの分別、リサイクル、食品ロスの問題をより掘り下げ、地域、企業、行政等の取り組みや願いも学ぶ中で、「地球の未来を守る」方法を考え、地域や県内外への啓発に力を入れる。

事業概要

事業区分：ステップアップ事業(ジュニア枠)

補助金：100 千円(総事業費 165 千円)

実施期間：令和 7 年 6 月 15 日～令和 7 年 12 月 31 日

施行場所：香美市内 他

事業内容

物部川での水生生物調査、香南市岸本海岸等でのゴミ拾いや漂流物調査(写真1)、地域のゴミ拾い、「21世紀の森と水の会」や香美市環境課からの話、「エフピコ福山リサイクル工場」の見学(写真2)等を通してたくさんのことを学んだ。「みどりの小道」環境日記を書きながら、協議し合う中で、当初計画していた「よってたかって香美市でエコ!(8月24日)」「こうち環境博2025(8月30日)」での啓発の他に、「通学路のゴミ拾い」「正しいトレーの出し方で地球を守ろう!」(写真3)「お店のエコスタンプラリー」(写真4)などを自主企画し、具体的な呼びかけでの啓発活動を展開した。



結果と分析

「エフピコ福山リサイクル工場」で、エフピコで作られたトレーのリサイクル率が20%と聞き、「リサイクルは家庭での分別が出発!」の認識を強くした。

様々な啓発活動において、地域の方々から「分別の仕方がよく分かった」「リサイクルが進むように周りの人たちにも呼びかけます」「エコクラブの啓発の仕方がおもしろかった」など、うれしい声が聞かれた。

作成した啓発用資料、壁新聞、「みどりの小道」環境日記などは、今後も積極的に活用していく。今年度の事業を通して、子どもたちの企画力が高まったことは大きな成果である。

今後の取組に向けて

当クラブの活動テーマは①「奥物部の自然林で起こったシカ食害から山を守る!」②「Cool Choice を地域に広める!」である。

本年度は②に重点を置いて啓発に力を入れて活動した。

来年度は①②の充実と「香美市こどもエコクラブ・17年間の歩み」をまとめた冊子を作る予定である。

団体名 高知市立旭小学校

住所: 高知県高知市本宮町 15 番地

連絡先: 088-844-0288

代表者: 谷川 勇介

事業名

本宮川ホタルこいこい大作戦!

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

事業目的

高知市旭地区に流れる本宮川には蛍橋という地名があるほど、昔はホタルが乱舞していたが、現在は数が減ってしまった。地域の方々が残してくれたホタルの川を未来に繋いでいきたい。そこで、地域の方々の取組だけでなく、子どもたちに自分たちが地域のためにできることを考えさせ、本宮川を大切にしていこうと意識を高め、地域に発信する。

事業概要

事業区分: ステップアップ事業(ジュニア枠)

補助金: 98 千円 (総事業費 98 千円)

実施期間: 令和7年6月24日～ 令和8年2月20日

施行場所: 高知市立旭小学校、本宮川周辺



事業内容

① 本宮川の生き物調査(9月16日)

旭小学校の前を流れる本宮川の存在を子どもたちは知っているが、「どんな川なのか。」「どんな生き物がいるのか。」については、ほとんどの子どもたちは知らない。子どもたちが本宮川に興味をもつために、水生生物研究家の石川妙子先生たちをお呼びして、生き物調査を行った。ホタルの餌になるカワニナや大きなモクスガニや絶滅危惧種のドンコなどさまざまな生き物を見つけることができた。

また、捕まえた生き物から本宮川の水質を調べた。カワニナやコオニヤンマのヤゴなどから、ややきれいな水に分類されることがわかった。

② 本宮川の生き物マップ作成(9月中旬～9月下旬)

本宮川の生き物調査で見つけたものをもとに、本宮川の生き物マップを作成した。そのために、生き物調査に引き続き、石川妙子先生たちから水生生物や植物の特徴について教えてもらう場を設定した。子どもたちは教えてもらったことを意識して、生き物の絵を丁寧に仕上げる事ができた。

また、作成したマップを「第42回 わたしの自然観察路コンクール」に応募し、優秀賞を受賞することができた。



③環境学習「ホタルってどんなこん虫？」(10月10日)

高知県立高知海洋高等学校の石川憲一先生をお呼びして、本宮川に生息するホタルはどんな生き物なのかを教えてもらうことができた。子どもたちはホタルのことを知り、さらに本宮川を大切にしたいという思いを高めていた。

④冬のブルーサタごみ拾い(11月30日)

ふる里の川 本宮川を取りもどす会、旭校区青少年育成協議会の合同開催の「冬のブルーサタごみ拾い」に参加した。休日のため、全員の子どもたちが参加することはできなかったが、自主的に参加する子どもがたくさん見られた。



⑤リーフレット作成(1月下旬~2月中旬)

1年間の活動のまとめとしてリーフレットを作成し、配布するために900部印刷した。

結果と分析

子どもたちは本宮川やそこに生息するホタルについて知ることで、これからも本宮川を大切に守り続けていきたいという気持ちを持ち、自慢できる川がある旭を愛する気持ちを高めることができた。また、地域の方の話や「冬のブルーサタごみ拾い」の参加から、地域の方々の努力があって今のきれいな本宮川があることに気づくことができた。

本事業で作成したリーフレットを地域の方々に配布することで、子どもたちが本宮川について学習していることを知ってもらい、地域の方にもきれいな本宮川を残していきたいという気持ちをもってもらいたいと思う。

今後の取組に向けて

本事業で作成したリーフレットを全校児童や教職員や地域の方々に配布する予定である。また、旭小学校として、来年度以降の3年生も本宮川についての学習を受け継いで行っていきたい。